

民間支援団体と区市町村の連携による支援について メルクマールせたがやにおける連携支援



メルクマールせたがや設立の経緯

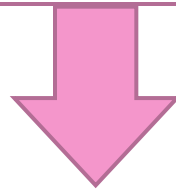
社会参加（就労等）準備のための土台づくり

平成21年7月 「子ども・若者育成支援推進法」 成立

平成25年4月 従来の世田谷区子ども部に若者支援担当課を設置

平成26年4月 世田谷区子ども部を子ども・若者部に改編

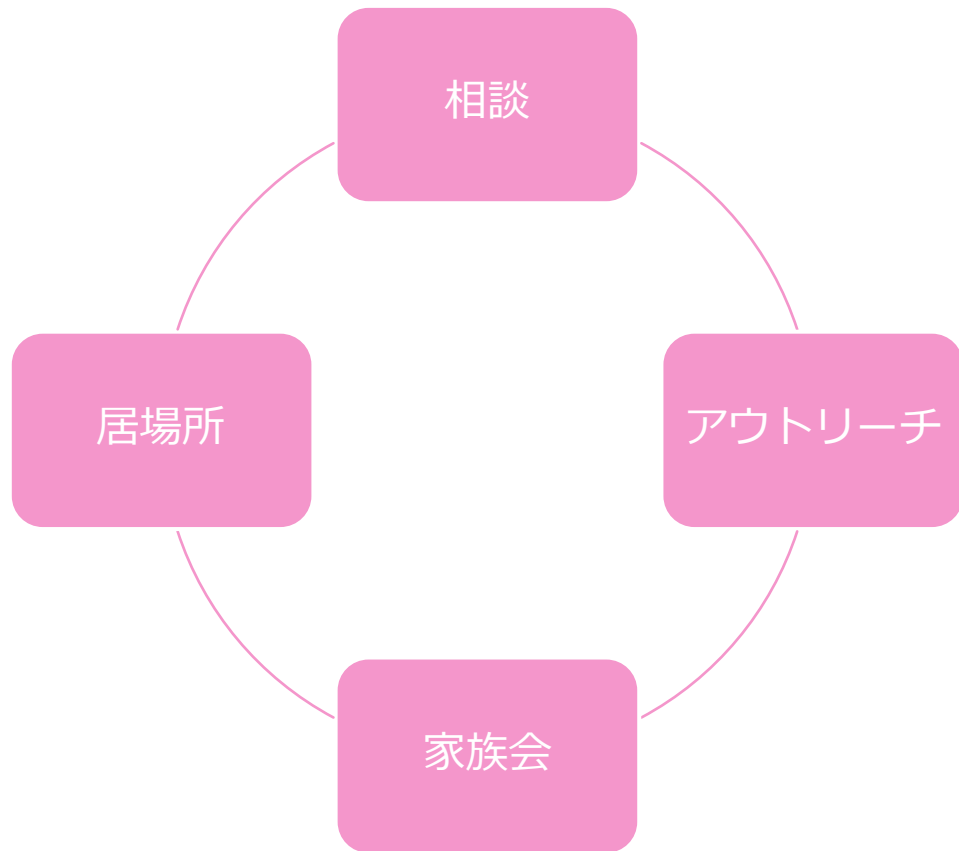
- ❖これまで手薄だった中高生世代から39歳までの若者支援
- ❖若者サポートステーションに来所する若者たちの停滞



若者総合支援センター

ひきこもり等生きづらさを抱えた若者の支援と地つづきであるせたがや若者サポートステーション（就労支援）との一体的・伴走型支援

メルクマールせたがや活動内容



相談部門

- ・臨床心理士、精神保健福祉士による個別相談
- ・担当制による継続面接を実施

居場所部門

- ・グループ登録制によるクローズドな居場所
- ・スタッフを活動時間にあわせて固定配置

家族会部門

- ・ひきこもりに悩む家族を対象に月1回開催
- ・スタッフによるセミナーと家族同士の交流の場

アウトリーチ部門

- ・自宅等への訪問相談(狭義のアウトリーチ)
- ・区内関係機関との連携強化(広義のアウトリーチ)

メルクマールに来ている若者って？

◆大人たちの若者観の再認識が必要

どこにも行き場のなかったグレーゾーンの若者たち

- ☑医療関係・保健福祉関係を利用しながらも、グレーゾーンで、行き場がなかった若者たちが多くつながってきた（56%）。
- ☑何らかの精神疾患を抱えている、通院、通院歴のある若者が多い。
- ☑福祉医療と労働施策の狭間

メルクマールに来ている若者って？

◆大人たちの若者観の再認識が必要

- ・ 規範意識が強い
- ・ 自責感が強い
- ・ 生きる意欲がない
- ・ 何をどうしたらいいのかわからない、決められない
 - ・ 人を信用、信頼できない
 - ・ 自分が存在していることが不安

メルクマール来ている家族って？

- ◆親の主訴で圧倒的に多いのが、「本人との関わり方」であり、ひきこもっていたり、生きづらさを抱えている本人とどう接していいかわからないと訴える親が多い。
- ◆50%以上が親のみの相談から始まる。

精神疾患を抱えている

機能不全家族

コミュニケーション不全

希望が持てない

【平成28年度】

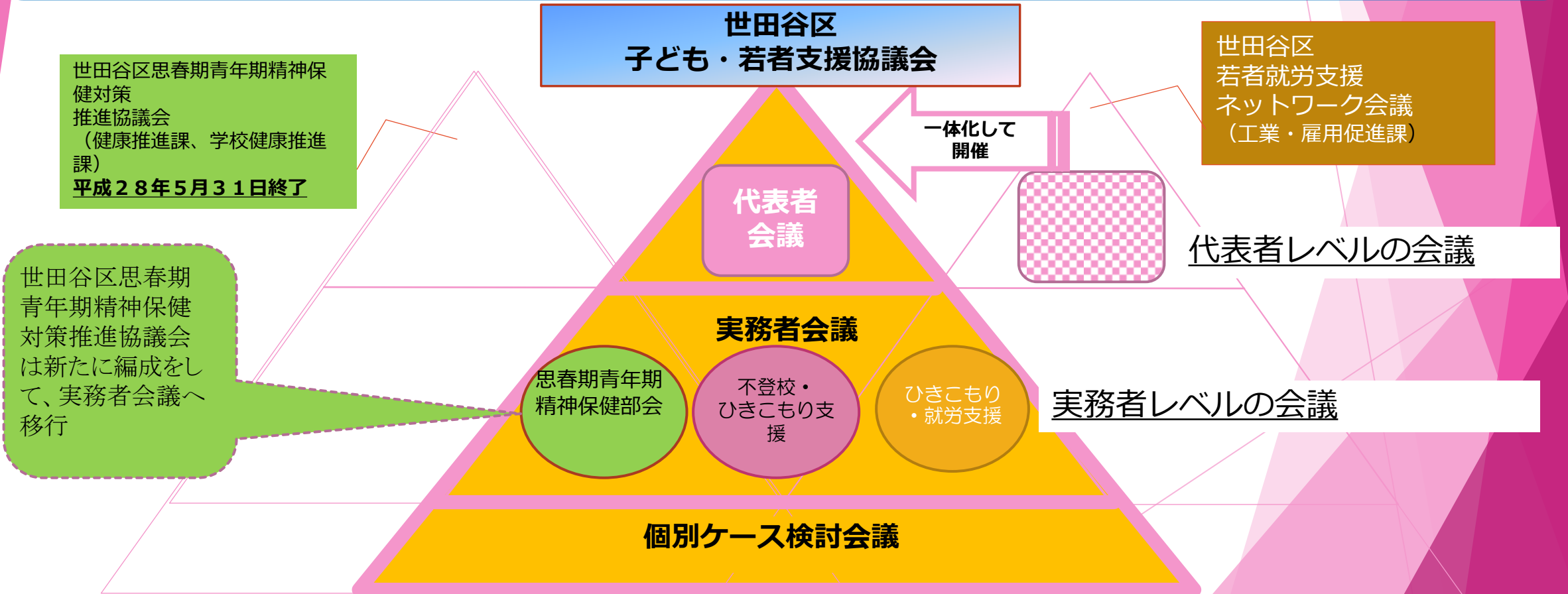
世田谷区子ども・若者支援協議会

修学や就業等のいずれもしていない子ども・若者で、社会生活を営む上での困難を有するものに対し、関係機関等の支援を適切に組み合わせることにより、その効果的かつ円滑な実施を図ることを目的とする会議

【実務者会議】 関係機関の実務者による研修や事例検討会

- ◎ 『不登校・ひきこもり支援部会』 ……【対象】ひきこもりや不登校等の生きづらさを抱えた若者
- ◎ 『ひきこもり・就労支援部会』 ……【対象】就労支援につなげにくいなどの生きづらさを抱えた若者
- ◎ 『思春期青年期精神保健部会』 ……【対象】思春期青年期の子ども・若者

【個別ケース検討会議】 個別の若者について、直接関わる構成機関の担当者による、ケースごとの具体的な支援方法を検討



子ども・若者支援協議会の構成

代表者会議

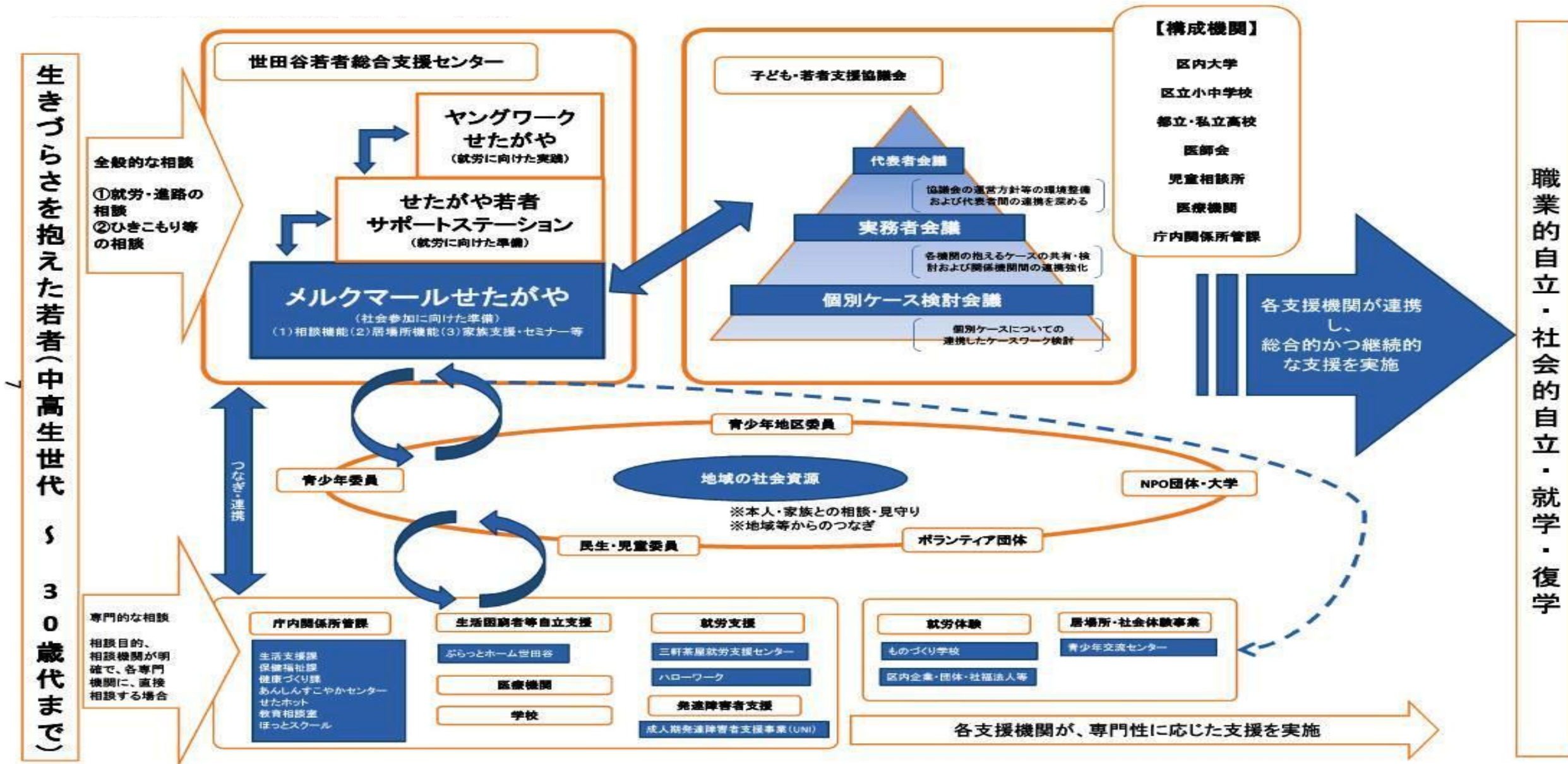
- 構成機関の代表者を集めて年2回程度開催する。
- 協議会の運営方針等の環境整備を図るとともに、代表者間の連携を深める。
 - ①生きづらさを抱えた若者の支援に関するシステム全体の検討
 - ②実務者会議からの活動状況の報告や評価
 - 等

実務者会議

- 関係機関の実務者を集めて研修や事例検討会を開催する。
- 各関係機関が抱える特徴的なケースや好事例ケースを一般化し、関係者間で共有・検討することにより、実務者の知識の向上を図ると共に、関係機関間の連携強化を図る。
 - ①定例的な情報交換
 - ②支援ケースに関する状況確認
 - ③個別ケース検討会議等で挙げた課題等に関する検討
 - 等

個別ケース検討会議

- 個別の若者について、直接関わる構成機関の担当者が集まり、ケースごとに具体的な支援の方法を検討するために適時開催する。
- 状況の把握や問題点の確認、支援方針の策定・見直し、役割分担の決定・認識の共有などを図る。
 - ①支援ケースの状況把握や問題点の確認
 - ②支援方針の確立と役割分担の決定、共有
 - ③実際の支援方法の検討
 - 等



不登校・ひきこもり支援部会

平成27年度に新たに「若者支援連携部会」が設置され、その一環として、平成27年11月に不登校・ひきこもり支援部会を発足

目的

- ①不登校・ひきこもり等生きづらさを抱えた10代の若者への支援
- ②10代の若者への切れ目のない支援・ネットワークづくり
- ③各機関の事業内容の把握や事例検討を通じ、課題やノウハウの共有

不登校・ひきこもり支援部会

平成27年度

【方策】

顔の見える連携を目指して



メルクマールセタがやの事例を通して各機関の事例理解と機関紹介

メルクマールセタがやの事例を通して各機関のできることの意見交換

構成機関および事務局

機関一覧

総合支所健康づくり課保健相談係

都立松沢病院社会復帰支援室

総合支所生活支援課子ども家庭支援センター

世田谷区発達障害相談・療育センター げんき

総合支所保健福祉課

野毛青少年交流センター

障害者地域生活課

特定非営利活動法人日本子どもソーシャルワーク協会

子ども・若者部児童課

特定非営利活動法人まひろ

教育相談・特別支援教育課総合教育相談室

特定非営利活動法人東京都自閉症協会

東京都世田谷児童相談所

都立世田谷泉高等学校

<事務局>

東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課

子ども・若者部若者支援担当課

都立中部総合精神保健福祉センター

メルクマールせたがや

平成28年度の報告

日時	内容
6月28日	早期のよりよい関係機関連携を目指して(研修)
9月13日	<ul style="list-style-type: none">・16歳男性の事例を通しての関係機関理解・グループ形式による事例検討
12月6日	<ul style="list-style-type: none">・10代の若者への支援～支援者が若者と出会うために～・機関を越えた個人としての支援者のあり方を考えるグループワーク
2月28日	<ul style="list-style-type: none">・他機関・他職種と連携した好事例～他職種で連携することの利点・効果～・グループ形式による事例検討

➤不登校・ひきこもり支援部会構成機関別事業一覧の作成

平成28年度の報告－協議の抜粋－

＜有効な連携について＞

- ・ ケースと一番つながりのある支援者・機関が中心となって連携をコーディネート
- ・ リファー前の機関同士の情報共有。支援方針の共有や対応の準備が可能
- ・ 複数機関の担当者同士が集まり、全体として支援方針・役割分担を検討・決定（個別ケース検討会議）

＜切れ目のない支援＞

- ・ 学校在籍中から支援ができる仕組みづくり
- ・ 相談歴・利用歴のわかる共通の一覧表があると良いのではないか

＜区民向けの情報発信＞

- ・ 各相談窓口に設置できる区民向けの支援機関の案内があるといい。
- ・ 親が支援に拒否的であると子どもが繋がらない。本人向けの広報が必要。
- ・ 継続して支援、切れないで支援をしていることがわかる広報紙の作成。

ひきこもり・就労支援部会 構成機関および事務局

機関一覧	
工業・雇用促進課	野毛青少年交流センター
障害者地域生活課	ハローワーク渋谷
生活福祉担当課	特定非営利活動法人まひろ
総合支所健康づくり課	ぷらっとホーム世田谷
せたがや若者サポートステーション	
発達障害者就労支援センターゆに (UNI)	<事務局>
みつけばルーム (東京都自閉症協会)	子ども・若者部若者支援担当課
三茶おしごとカフェ	メルクマールせたがや

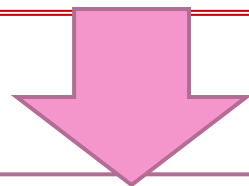
平成28年度の報告

	第1回	第2回	第3回	第4回
日時	28年6月23日 (木) 10時～12時	28年9月29日 (木) 10時～12時	28年12月22日 (木) 10時～12時	29年3月23日 (木) 10時～12時
場所	メルクマールせたが やセミナールーム	メルクマールせたが やセミナールーム	メルクマールせたがや セミナールーム	メルクマールせたが やセミナールーム
参加者数	25名	24名	23名	23名
内容	<ul style="list-style-type: none">・自己紹介・事例検討 →3ケース実施	<ul style="list-style-type: none">・機関紹介 →構成機関別事業一 覧を作成 <ul style="list-style-type: none">・経過報告・事例検討 →3ケース実施	<ul style="list-style-type: none">・経過報告・事例検討 →3ケース実施	<ul style="list-style-type: none">・事例検討 →2ケース実施 <ul style="list-style-type: none">・協議：今年度の振 り返りと次年度に向 けて

平成28年度の報告

サポステ、メルクマールの事例及び、UNI、三茶おしごとカフェの事例検討を行った。

2016年度事例において共通するのは、
障害者及び障害が疑われる利用者への支援が難しいことを痛感、経済的な余裕と共に「困り感」
が感じられないケースの難しさ(サポステより)
家族関係、対人関係、過去の外傷体験等、ひきこもりの背景に複合的な要因を抱えているケー
スがほとんど(メルクより)



その人の生活全体を見ていかないと就労に結び付けることが難しい。
それぞれの機関が、全体の中でも自らの立ち位置を明確にしながら、その人
ひとりのためによりよい連携をしていく。

29年度の取組

- 就労支援を必要とする生きづらさを抱えた若者の支援

⇒他機関・他職種連携ケースの事例検討会を行い、支援内容・方針の共有、各機関の役割分担を明確にし、チームとして複合的な困難のある若者の支援に向けて、就労支援、精神保健、障害者支援などの各分野のネットワークの構築を図る。

⇒若者ひとりひとりに応じた支援体制づくりを目指す。

- 事例検討を中心とした関係機関連携の強化

⇒年間を通して、継続性、連続性を持たせた事例検討会を行うことで、支援経過を縦断的に辿り、支援方針の妥当性を図る。

個別ケース検討会議

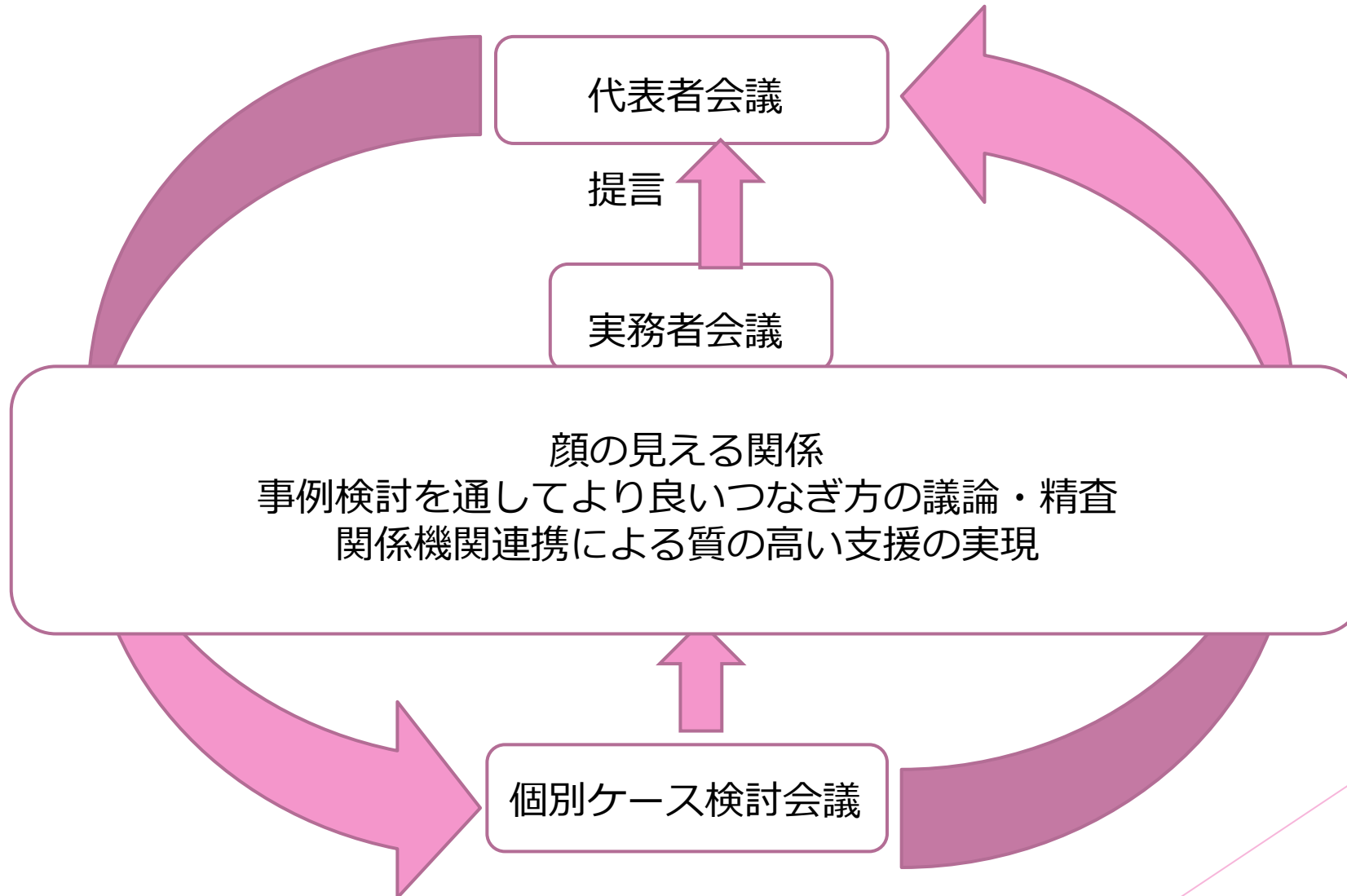
目的

- ①対象者に直接かかわる各関係機関担当者の密な連携
⇒スクラムを組む
- ②対象者への具体的な支援を検討、協議、役割分担。本人不在にならないようにできるだけ本人を交えた検討会をするのが望ましい。⇒チーム支援

29年度の取組

- 現場レベルで起きている若者の就労支援の課題を整理し、代表者会議となる子ども・若者支援協議会につなげていく
- 部会会場を各機関の持ち回りで開催
⇒若者支援機関の施設見学ツアーを兼ねて。

より良い連携をめざして



課題 1 . 不登校問題

メルクマールに来所した方の約68%が、不登校経験者である。

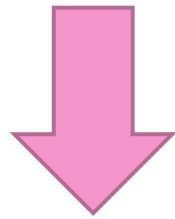
その中の多くは、一旦は高校進学、大学進学を果たしたものの、その後ほどなくして行けなくなるケースが多い。

中学卒業（義務教育の終了）、高校卒業というタイミングで支援が途切れやすい。

課題 2.

ひきこもり期間の長期化

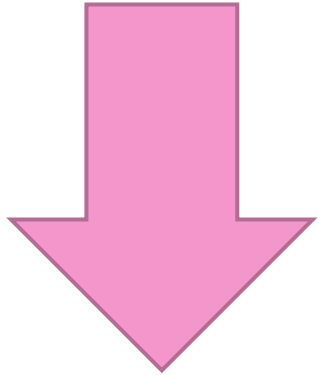
- ▶ ひきこもりが長期になると、より動きにくい。
- ▶ 長期になればなるほど、土台づくりが必要となる。



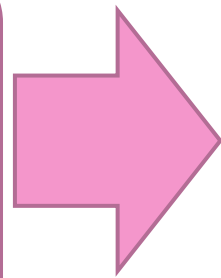
早期支援の必要性

ひきこもりの長期・高齢化問題の背景に

不登校経験・中退問題



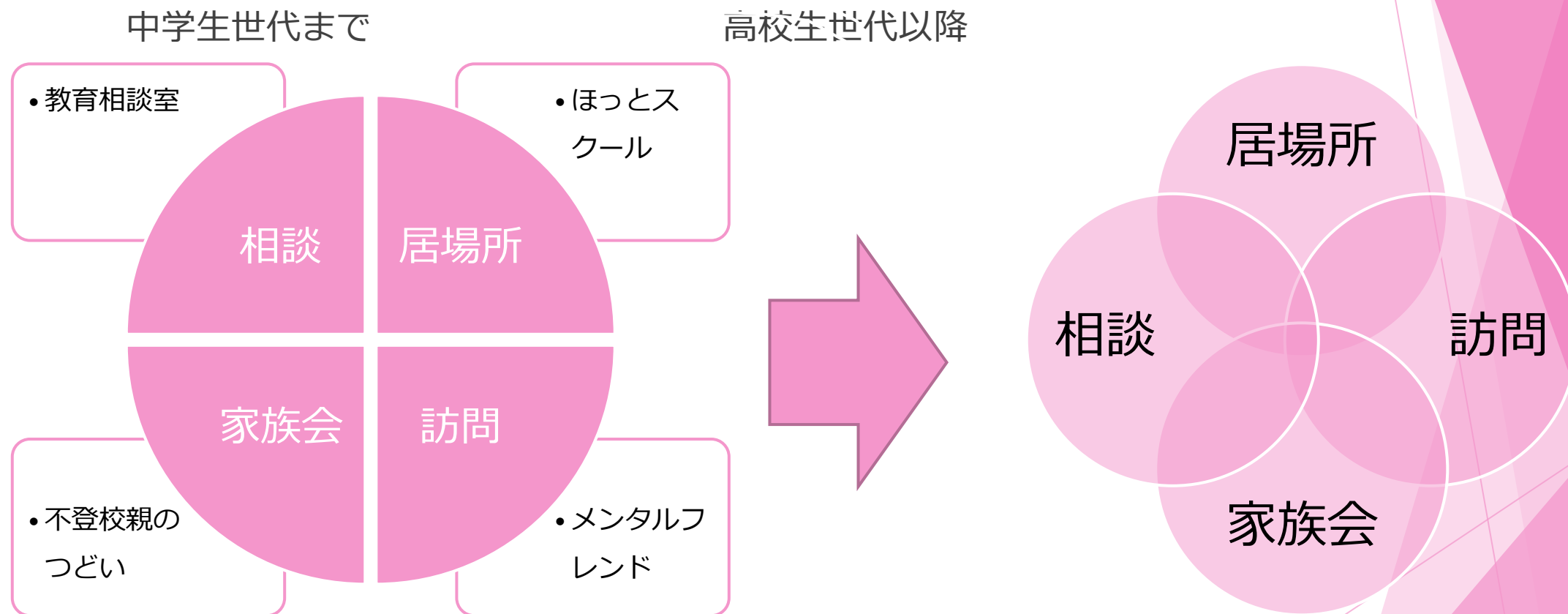
早期支援の必要性
切れ目のない支援



早期支援のための
ネットワークづくり

29年度の取り組み：ティーンズサポート事業

～教育機関との連携を～



各機関の支援機能をメルクマールで引き継ぐ

課題3. 生活困窮者・家庭への取り組み

◆各総合支所の生活支援課との連携・協働体制の構築

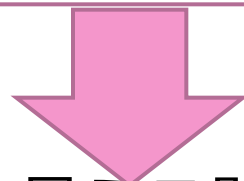
◆ぷらっとホーム世田谷との連携強化

チームとしての支援と役割分担⇒個別ケース検討会議
⇒共同でのイベントや活動

課題4.

他機関連携（指定機関として）

- ◆個別ケース検討会議の開催
- ◆不登校・ひきこもり支援部会の運営
- ◆ひきこもり・就労支援部会の運営



顔の見える関係づくり
よりより連携とは何か？（事例検討の積み重ね）
区民にわかりやすいネットワークの広報

課題5.

若者総合支援センターグランドデザインの 発展的再構築（世田谷モデルの構築をめざして）

- ▶ ワンストップ窓口としてのメルクマールせたがや
- ▶ 地つづき支援（センター内における連動した入口・出口の見える化）
- ▶ 若者は、生きづらさ～元気系と二分化できず、グラデーションの中で行き来する事によって成長していく